



The TKF TIMES

高崎市立高崎経済大学附属高等学校新聞部

4月14日(火)発行

4月号①

新入生来たる 高校生活スタート!

平成二七年四月六日、本校で第二十二回入学式が行われ、新たに280人が経附の一員となった。今年も県内随一の高倍率を誇った我が校への競争を勝ち抜き、入学切符を手に入れた彼らはどのような気持ちで入学式に臨んだのだろうか。新入生代表の清水優人君に取材を行った。また、生徒代表として生徒会長に新1年生へ向けたお言葉をいただいた。

▶新1年生総勢280人!



第二十二回入学式は、午後一時から本校二階体育館で行われ、式には280人の新1年生とその保護者の方々、高崎市長をはじめとする来賓の方々が参加した。新入生代表挨拶を行った清水優人君は「これからの不安とわくわくで、胸のドキドキが止まりませんでした」と入学式に臨んだ気持ちを語った。また、これからの高校生活での楽しさについて聞くと「新たな友達との交流やオナークラスの活動、部活動など、たくさん



▲緊張しながら式の開始を待つ

んの活動をする高校生活で、全てのことについていざ取り組むことと答えた。そして、生徒会長の柳岡宗一郎君は「1年生の皆さん、受験戦争お疲れ様でした。そして改めてご入学おめでとうございます。皆さんがこれから過ごすこの学校での生活は、皆さんが思っているよりも短いのです。ですから充実した3年間を過ごせるようがんばってください。そのためにも生徒会は全力でフォローしていきます。これからよろしくお祈りします」と新1年生の入学を歓迎した。

不安とギョギョの2日間

平成二七年四月七日から八日にかけて、新1年生が国立赤城青少年交流の家において赤城合宿を行った。経附生なら誰もが一度は経験する赤城合宿、今年はどうなことが行われたのだろうか。また新1年生はどんな感想を抱いたのだろうか。今回はその内容について先生方や新1年生に取材を行った。

高経附に入ってから初めての大きな行事が赤城合宿である。2・3年生も1年生の時に合宿を行って、ご飯のバイキングがおいしかったり、スタディーサポートを行ったりと懐かしさを感じることもあるだろう。

そんな赤城合宿だが、今年例年と比べて日にちが大きく変化した。今までは入学式の約四日後に行われるのが通例だったが、なんと今年は入学式の次の日から合宿となった。知り合っていない合宿生も、いきなり合宿となると相当緊張したところだろう。さらにもう一つ例年と変化した点がある。それは二日目のレクリエーションだ。例年



▲真剣に話を聞く1年生

はそれぞれ班に分かれて合宿場の周辺を散策し、その過程でクラスメイトと協力することでお互いの距離を縮めていった。しかし、今年のレクリエーションではクラス対抗のドッチボールを行った。どの生徒も積極的にドッチボールに参加し、一気にクラスや学年の団結を深めることができたようだ。例年とは違った新しい試みだったが、大成功に終わったといえるだろう。



▲円陣組んで、いざ勝負!

そのような大盛り上がりを見せた合宿だったが、実際に参加した生徒はどのような感想を抱いたのだろうか。そこで1年生代表として清水優人君に全体の感想

を聞くと「全く知らない人たちと二日間を共に過ごすのはとても緊張して、疲れしました。しかしみんなとすぐに仲良くなることができました」

と話していた。またドッチボールでの感想を聞くと「みんな上手でびっくりしました。また、ドッチボールをしたことでクラス全体の雰囲気も良くなりました。みんなで一つの競技をすることで、学年の仲も深めることができました」と話した。

野球部の新兵器

〜屋内雨天時練習場に迫る〜

平成二七年三月一八日、本校の校庭に雨天時練習場が完成した。野球部の新たな設備であるこの練習場はどのような経緯で作られたのだろうか。そこで今回、それを明らかにするために小池先生に取材を行った。

今回建てられた雨天時練習場は、その名の通り雨天時に練習することができる設備であり、照明設備も整っているため夜間の練習にも使用できる。これは高崎市から下りた予算で建てられたもので、着工日は昨年の一月二八日、完成日は今年の三月一八日だ。

野球部の顧問である小池先生にこの練習場について伺うと「今まで野球部は雨天時に練習場所が無かった

ので、それを解消できた。また夜でも明かりが付くので練習をしたい時に練習をする事ができる。今年には新入生がたくさん入部したので、今後は限られた施設で



▲雨天時練習場での様子

中の一つとして有効利用したい」と喜びを語ってくれた。また野球部員の多くも先生と同様にこの練習場の完成を喜んでいようだ。昨年、県大会ベスト4という本校初の快挙を成し遂げた野球部にとって、この練習場の存在がよい風をもたらすことは間違いなく、野球部のさらなる躍進を期待している。

ていた。そして最後には「これから三年間、みんなと楽しく過ごしていきたいです」と熱く意気込みを話してくれた。

経附主義 TKFism

四月二三日が「子ども読書日」であることを知っている人はあまり多くない。これは二〇〇一年に文部科学省が「子どもの読書活動についての関心と理解を深め、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めること」を目的として制定したものである。▼全国学校図書館協議会が全国の小・中・高校生を対象に行った平成二六年度の調査によると、高校生が一ヶ月に読んだ本の平均冊数は一・六冊となっている。これは前の年度より〇・一冊減少しているのだ。またこの一ヶ月に本を一冊も読んでいない高校生の割合は四八・七%となっており、昨年度に比べ三・七%も増加している▼やはり高校生になると、本よりも漫画や雑誌などを読みたくなる。しかし、読書は様々な知識や考え方を身につけることができる。この日を機に学校の図書室の利用者が増えることを願う。(本多)